

# 全国協議会 ニュース

発行所  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク  
推進連絡協議会  
〒160-0005 東京都  
新宿区愛住町23-1  
Woody21-9階  
TEL.(03)3356-8217  
FAX.(03)3356-8637  
発行責任者:笠原慶一  
http://www.marow.or.jp/  
E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座  
00150-4-15754  
銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655

## 「医療に前金制は許されない」

### 一括前払い制に反対の要望書提出

全国協議会は、11月21日に骨髄移植推進財団の高久理事長あてに「患者負担金の一括前払い制度を導入しないことを求める要望書」を提出しました。

これは財団が、4月に設置された諮問委員会である財務・運営特別委員会の答申に基づき、

11月26日に開かれる臨時理事・評議委員会に制度の導入を提案することが明らかになったことに對するものです。

制度の概容は、従来の患者負担金がコディネットの進行に伴って事後に請求していたものを、最初に一定額(70万~100万円)の前払いを求め、入金確認後手続きを始める、というものです。

要望書提出後、全国協議会の呼びかけに応じて、多くの加盟団体から制度の導入に反対の要望書が財団に届けられています。

### <要望書の要旨>

1. 一括前払い制度は患者にとって合理性を欠くもの  
電気・ガス・水道など公共料金が多く、多額の未収金を抱えながらも前払い制度を採用しないのは、それが生きていく上で人間に欠かせないものであることが理由の一つです。  
骨髄バンク事業は、一人でも多くのいのちを救おうという事業であり、安易な前払い制度の導入には理がありません。  
また、制度の検討に当たって、一度たりとも患者や関係者の意見を聞くことなく導入しようとするのは、利用者を無視したものであり、決して許されないことです。
2. 未収金発生原因の調査・分析こそ急務  
これまで、なぜ未収金は発生するのか、どの支払い段階が最も未収となり易いか、未払の理由は何か、などの回収率を高めるための調査や分析は満足に行われませんでした。このことに対する対応こそ、まず求められます。  
一方、本年4月からの医療保険の改定に伴うあらたな支払い制度の下では、入金率が95%を超えており、前払い制度の導入の必要性は見出せません。
3. 財政破綻の責任は全理事にこそある  
財団の理事者には、設立当初から財務、経営、法律等の専門家が名を連れねながら、財政破綻に至るまで何ら改善策を示さずにきました。自らの無策のツケを、最も容易な方法で将来の患者に負わせようとするのがこの制度です。(要望書の全文は、全国協議会のホームページに掲載されています。)

## 2003年版 「ハローキティ・シールカレンダー」 「あやちゃんの贈り物カレンダー」 ができました。

「ハローキティ・シールカレンダー」は昨年のもっと少しデザインを変えました。同様に貼ってはがせるシールです。裏面ではキティちゃんが骨髄バンクのPRをしています。



「あやちゃんの贈り物カレンダー」は、一年が一目で分かるB2版サイズ(728×515)です。あやちゃんのやさしさを一年中語りかけてくれます。

お友だちにも紹介して骨髄バンクの応援をして下さい。

### 【ご注文は】

地元の骨髄バンク支援団体・または「特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会」へ  
〒160-0005 東京都新宿区愛住町23-1 Woody21 9階  
TEL: 03-3356-8217 FAX: 03-3356-8637  
e-mail: office@marow.or.jp

※カレンダーと一緒に振込用紙を送ります。(料金後払い)在庫無くなり次第終了。ご注文はお早め!

### 最新医療情報 その①

#### 抗体療法

癌治療では、長い間抗体による治療が研究されてきました。がん細胞にだけ表れる目印(抗原)を探してそこにとりつく抗体を作れば、がん細胞だけを効率的に攻撃し、副作用の少ない薬ができるのではないかと考えられるからです。

リツキサンはB細胞のみに発現するCD20抗原に特異的に結合するモノクローナル抗体です。本剤の適応症は、CD20陽性の低悪性度又は局所性B細胞性非ホジキンリンパ腫、マンツル細胞リンパ腫で、有病者数は現在国内で約5,700人とされています。

低悪性度リンパ腫は病気の進行が緩慢で、初期は化学療法に反応するものの、根治は困難で、再発再燃を繰り返しているうちに化学療法に耐性を獲得すると共に、高悪性度に組織学的に転換して患者さんを死に至らしめるという不治の病気です。既存の化学療法で効果を得るためにはかなりの入院治療期間を要し、また血液毒性などのために患者に著しい負担をかけるという問題があります。

リツキサンの国内外の臨床データによると、再発もしくは薬剤耐性を獲得した患者の50~60%に対して50%以上の腫瘍縮小効果が見られ、2年以上効果が持続した例が多く報告されています。本剤は既存の化学療法剤とは異なる作用機序で抗腫瘍作用を発現し、B細胞以外の細胞や造血幹細胞、形質細胞には影響を与えません。また、奏効率が高く効果持続期間が長く、従来の薬剤に比較して安全性が高いことが示されています。

さらには、治療期間が短く、外来での治療が可能であるという特徴を有しています。

2003年春頃には、びまん性非ホジキンリンパ腫にも適応が広がり多くの患者さんの治療に使われることになりそうです。患者さんにとって延命効果とQOLの向上が期待されます。

最近、「標的治療」として、分子核医学的に病変を検出して、腫瘍に高いレベルの放射線を照射する治療に、診断用プローブを応用することも行っています。最新の治療新薬としてゼパリンというCD20に対する放射性標識抗体が目玉されつつあります。

化学療法やリツキサンに反応しなくなった患者さん54人の患者さんに対する治療における奏効率は74%、化学療法に反応しなくなったもののまだリツキサンの治療を受けていない143人の患者さんに対する治療における奏効率は、リツキサンが56%であるのに対して、ゼパリンは80%、とのこと。現在、アメリカで臨床試験中ですので、今後の成果に期待が集まっています。

### 骨髄バンクの最新情報をお知らせする

- ドナー登録数は16万人超、目標まであと14万人  
本年(2002年)10月末で、ドナー登録者の現在数も、ようやく16万を超えました。目標とする30万人を早期に達成するには、全国各地で様々な取り組みが必要であり、全力をあげて努力してまいります。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。
- 11月の登録、2000人の登録でも黄信号点減  
10月のドナー登録者数は2486人で、取消者数は396人、実質増加数は2090人でした。本年度に入り月間登録者数として、はじめて2000人を上回りましたが、それでも昨年の10月の登録者との比較では86.1%と、連続4カ月間、登録者数が前年同月比を下回り、目標達成への黄色信号が点滅しています。
- 12月は骨髄バンク推進月間、全国一斉登録会の開催をお願いします  
11月13日までに財団へ報告されている計画では、献

血併行型88回、集団登録会51回の開催予定で、2140人の登録者が見込まれますが、努力目標の5000人にはまだ届いていません。ラストスパートをよろしくお願ひします。

●新ポスターは夏目雅子さんニューヴァージョン  
財団は今年も推進月間にあわせ、骨髄バンク啓発ポスターを作成します。前回好評を得た夏目雅子さんが、新ヴァージョンで再登場します。1985年に急性骨髄性白血病のため27歳で亡くなった夏目雅子さんですが、その時に骨髄バンクがあったなら……。鮮やかな在りし日の雅子さんが「あなたのドナー登録を待っています」と呼びかけます。12月上旬から、都道府県、市町村、保健所などの行政機関、全国の郵便局などに掲出されます。A2、B2、A3の3サイズを用意いたしますので、ご利用ください。

### 骨髄バンクNOW

- 中溝裕子さん「筆文字カレンダー」1冊につき100円が骨髄バンクに寄付  
妹さんから骨髄移植を受けたプロゴルファー中溝裕子さんは、骨髄バンクの啓発活動にご協力をいただいています。入院中にはじめた筆文字は、多くの方々に元氣と勇氣と感動を与える作品となっていますが、この度「2003年 筆文字カレンダー」を制作されました。中溝さんの所属するプロダクションのホームページ(下記参照)から購入の申し込みができます。  
税込価格1200円、1冊につき100円が財団にご寄付されます。http://www.s-rights.co.jp/
  - 日本骨髄バンクの現状(2002年10月末現在)
- |         | 10月   | 現在数     | 累計数     |
|---------|-------|---------|---------|
| ドナー登録者数 | 2,486 | 160,975 | 200,122 |
| 患者登録者数  | 157   | 1,949   | 13,346  |
| 骨髄移植例数  | 61    | -       | 4,460   |
- 注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

## 「献血ルーム・血液センター実態調査」 骨髄バンク登録現場の実状

### その③ より積極的な普及啓発を

個々の施設の待合スペースに、ビデオ放映用の機器があるか否かについて調べました。調査が可能であった60(血液センター17、献血ルーム43)施設中42施設(70%)にテレビ等が備えられていました。これら42施設の中で、登録受付施設は37でした。全調査対象中、受付施設は48ですから、そのうちの11施設では待合スペースにはビデオ機器類は無かったことになりました。もちろん登録希望者のための別室には当然設置されているはずですが、財団発表の数字によれば、固定窓口1カ所あたりの年間登録者数は約100名ですから、使用していない時間のほうが圧倒的に長いことになりま。器材の有効活用の観点からも、待合スペースへのビデオ等の常設が期待されます。

調査時にドナー登録希望者のためのビデオテープが映し出されていなかったのは2施設(3%)で、いずれもドナー登録受付施設でした。調査時には放映されていなかったものの、日常的に、または定期的にこのビデオを再生放映していることが確認できた施設が少なくとももう1施設ありました。

最後に、各地のボランティア団体がイベント等のチラシやポスターを持ち込み、待合スペースへの設置や壁面への貼付を依頼する場合は、各施設の対応を調べました。48施設(80%)で、設置・貼付ともに可能でした。登録受付施設48カ所中10カ所では不可でしたが、非受付施設12カ所中10カ所では可能でした。

財団から発行されるマンスリーレポート11月号によれば、固定窓口での登録数の減少が顕著なようです。固定窓口は日赤の各施設と都道府県・政令指定都市等の保健所に大別されますが、平成13年度実績で、固定窓口での登録総数の約8割を日赤が受け付けていることを考え合わせると、献血ルームや血液センターでのドナー登録受付数の伸び悩みも容易に想像されます。年間およそ100万人の新成人が誕生しており、日赤の固定窓口で、成人後初めての献血をする方は少なくないはずですが、そういった方々の登録のチャンスを広げるためにも、新規献血者のリクルートに向けられるパワーのほんの一部でもいいから骨髄バンクのドナーリクルートに振り向けていただくことを期待します。

登録受付が実施されていませんが(平成14年7月現在)、「極力開いていくよう指導する」というのが日赤本社の方針と聞いています。単に開設するだけでなく、より積極的に登録を呼びかけ、潜在的な登録希望者が1人でも多く登録できるように環境づくりが望まれます。

Q1 待合スペースにビデオ放映用の機器は  
↓ある 42(70%) ない 18(30%) ↓

(Q1で「ある」と回答した中で)  
Q2 いま、登録用のビデオが放映されている 2(5%) いない 40(95%) ↓

(Q1で「ある」と回答した中で)  
Q3 日常的または定期的に、ビデオを放映している 3(7%) いない 39(93%) ↓

Q4 各地団体が持ち込みイベント等のチラシ設置・ポスター貼付は  
↓できる 48(80%) できない 12(20%) ↓

